

チュウブホソガムシ

コウチュウ目ホソガムシ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 準絶滅危惧

Hydrochus chubu Balfour-Browne et M. Satô

選定理由

全国的に分布が局所的であり、生息環境である低地の有機物の多い湿地が激減している。県内では3箇所を確認されていたが、うち1箇所はアメリカザリガニの侵入により絶滅した。

形態

体長2.4~2.5mm。体型は細長く、体表面に青緑金属光沢を持つ。複眼は大きく、側方に突出する。触角の先端は毛に被われ球桿を形成する。前胸背板の凹陷は顕著。同属のヤマトホソガムシに酷似するが、下唇基節の中央が丸くくぼむ点と、上翅第3、5、7、9間室が隆状となる点で識別できる。

国内分布

日本固有種。秋田、石川、香川、島根、山口、熊本の各県に局所的に分布する。かつては三重県や大阪府にも生息していた。

県内分布

小松市の生息地は2006年と2008年に各1箇所ずつ発見された。加賀市の生息地は1996年に発見されたが、アメリカザリガニの侵入により絶滅した。

生態

成虫は4月下旬~10月下旬に確認され、8~9月に個体数が増加した例がある。成虫はリターなどの有機物を摂食すると思われる。

生息地の条件

平野部~丘陵部にある広葉樹林に囲まれた池で、落ち葉の堆積するシルト底質の水生植物の豊富な、水深の浅い部分に局所的に生息する。加賀市は海岸付近の丘陵部の浅い池、小松市は丘陵部のため池であり、いずれも、小型の水生昆虫が多数生息している多様性の高い水辺環境である。

生存の危機

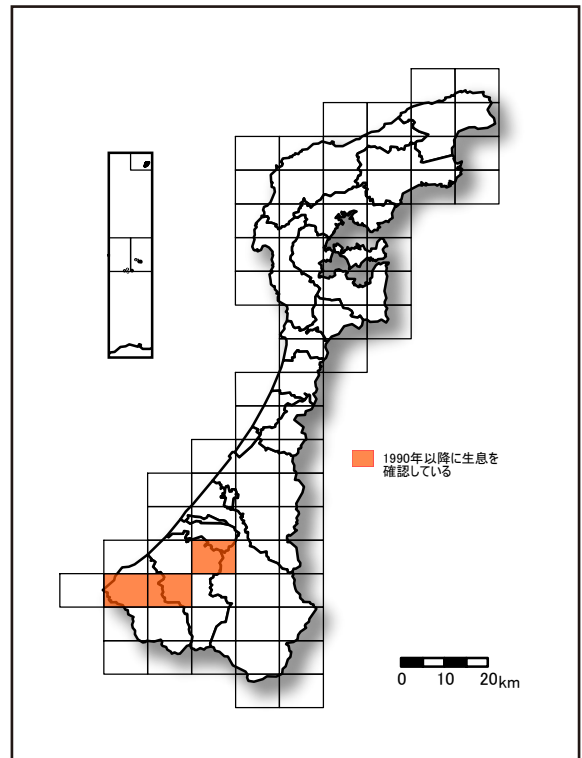
ため池の管理放棄、外来種の侵入が脅威となっている。加賀市の生息地は、周囲の水域から隔離された人為的影響のない所であったが、アメリカザリガニの繁殖によって植生が消失し、絶滅した。小松市のため池のうち1箇所は、30年ほど管理放棄され、2007年には水が抜けたが、水漏れ部を補修し水位を上昇させる保全作業により、現在も生息が確認されている。今後も、周辺環境と池の保全管理が求められる。(A, B, C)

参考文献

佐藤正孝 1978. 日本産ホソガムシ科概説. 甲虫ニュース, (40) : 1-3.
佐藤正孝・吉富博之 2005. 日本産水棲昆虫の分類学的覚え書きIV. 甲虫ニュース, (151) : 1-6.



標本提供者: 富沢章



県内の分布